

【評価実施概要】

事業所番号	0170400626		
法人名	有限会社ハートウォーミング		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	〒063-0834 札幌市西区発寒14条3丁目5-1 (電話) 011-666-8977		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成22年3月27日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】(22年3月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤	6人, 非常勤10人, 常勤換算 2.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000~65,000 円	その他の経費(月額)	20,000~25,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	133 円
	または1日当たり 1,333 円			

(4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	1名	要介護2	3名			
要介護3	1名	要介護4	2名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	82.33 歳	最低	76 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大田内科歯科 八軒循環器病院 札幌整形外科 山口歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は住宅街に位置しており、近隣には商店、小学校、病院等があり利便性に恵まれている。建物は2階建ての1ユニットで、利用者の安全に配慮された造りとなっている。室内は明るく清掃もゆき届き衛生的である。近くに法人運営の民家を利用したデイサービスがあり遊びに行く等互いに交流することができる。事業所独自の健康体操を毎日行い、看護師である管理者のきめ細かい健康管理が行なわれている。職員は穏やかな態度で利用者に接し、利用者の表情は明るく、家族の信頼は厚い。事業所と地域の連携は図られており、地域の人々から介護相談を受ける等地域に開かれている事業所である。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題であった家族への報告については改善されている。「あさひだより」の発行回数が増え、適時家族に送付している。金銭出納の家族印の確認が行なわれ密度の高い連絡が行なわれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員1人ひとりが参加して行ない、全員で話し合い検討して作成している。自己評価、外部評価の結果を踏まえ具体的な改善に取り組みサービス向上に取り組んでいる。評価は運営推進会議にも報告している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1度事業所内で開催され記録されている。地域包括センター職員、利用者家族、民生委員、地域住民、管理者、ホーム職員等が参加して行ない、事業所運営や行事報告、防災訓練、災害時に於ける近隣住民協力体制等について話し合われている。会議で討議された内容は事業所運営やサービス向上に具体的に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日頃から来訪時に家族の意見を聴いている。「あさひだより」を年数回発行し事業所行事や職員異動を伝え、毎月送付する手紙では個々の心身状況や金銭管理について報告し確認をとっている。意見箱の設置や外部への苦情相談窓口を玄関に明示しており、運営推進会議では家族の意見が運営に反映するよう行なっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し祭り等の行事に参加している。日頃から挨拶を交わすなど自然な交流があり、災害時等には近隣と互い協力し合えるよう連携を図っている。地域の介護予防教室や小学校行事への参加を行なっている。地域の人々からの介護や福祉についての相談を積極的に受け入れている。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中で「安全で快適な暮らし」を支える為の事業所独自の理念を策定し、理念に沿って日々サービスの実践を行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は額に入れて事務所の見やすい所に掲示し周知を図っている。日々のミーティングやカンファレンスで理念を掘り下げ一人ひとりの具体的なケアについて話し合いを行い実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭り等の町内会行事に参加している。日頃から自然な交流があり、地域の介護予防教室を利用したり、小学校行事に参加している。近隣の人々のホーム行事参加もみられる。地域の人々から介護についての相談を受けており、専門的立場から適切な助言をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価実施の意義を理解している。自己評価は職員全員が参加して作成し管理者がまとめている。評価は日頃のサービスの振り返りの機会と捉えており、外部評価結果を活かして具体的改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月ごと定期的を開催し記録している。地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民、家族、管理者、職員等が参加し、ホーム運営や行事、防災訓練、災害時に於ける近隣住民の協力体制等について話し合われている。会議で討議された内容はサービスの向上に活かされている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム管理者会議や連絡協議会などに参加し、研修、情報交換、相談等に積極的に関わりサービスの向上に努めている。又入居に関する相談等連絡を密にしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族来訪時には日頃の暮らし振りやケアプラン等について報告している。毎月手紙を送り一人ひとりの健康状態や金銭報告を行ない確認をとっている。「あさひだより」を年に数回発行しホーム行事や職員異動についてを報告し、電話連絡も随時行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時の面談で日頃から家族の希望や意向を聴いている。意見箱を玄関に設置し、公的苦情受付窓口を明示している。運営推進会議では家族の参加があり、家族の意見はホーム運営に反映されるよう行なっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員異動は、最小限に抑えるよう行なっている。やむを得ない場合は利用者のダメージを防ぐように配慮している。異動が予定される場合は、家族にも新旧職員を報告している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修や外部研修の参加は勤続年数も考慮して計画的に行なっている。働きながらの資格取得については積極的に支援し各種の研修参加に協力し、研修参加者には法人で経費負担する等積極的に進めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム管理者連絡会に参加し情報交換を行い勉強会等で資質向上に努めている。事業所同士の相互訪問も行ないサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に利用者や家族と面談し、要望や状態の把握に努めている。ホーム訪問や行事参加等でホームの雰囲気徐徐に馴染めるように行い、本人が納得したうえで利用するようにしている。利用開始直後も安心感をもって溶け込めるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に生活する中で喜びや哀しみの思いを共有している。利用者が今迄培ってきた知恵や経験を尊重し、人生の先輩として尊敬の念をもち、互いに学び支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>共に暮らしている中で言葉や表情、行動から個々の思いや希望の把握に努めている。把握困難な場合は家族の意見や関係者から情報を得るように努め、本人の意向を大切に本人本位の支援に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各人に沿った個別具体的な介護計画を作成している。どのように暮らしたいか利用者、家族の意見を聴き、関係者を含め職員全員で意見交換し介護支援専門員の適切な管理のもとに利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、3ヶ月ごと定期的に見直しを行っている。介護計画と現状にずれが生じた場合は医師や看護師、関係者と話し合い、全職員で検討し常に現状に即した計画を作成している。介護計画は家族の同意を得るようになっている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者希望の病院への通院支援を行っている。結婚式・葬儀への付き添い、理・美容室への送迎、外出など、状況に応じ柔軟に支援している。近くの法人経営のデイサービスの民家には気軽に遊びに行くことができる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>日常健康管理は提携医師による月1回の訪問診療と看護師、職員によりなされている。提携医とは24時間体制で連絡対応ができる体制を整えている。利用者希望の専門医等については連絡や通院支援を行ない、常に適切な医療が受けられるように支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針については早い時期に利用者、家族と話し合い書類で確認をとっている。状態の変化に伴い家族、医師、看護師、職員、関係者と話し合い、検討し、事業所で出来得る最大限の支援を説明し全員で方針を共有し確認している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は日頃から利用者のプライバシーを大切にして、誇りを損なわないように言葉かけや動作に配慮している。個人情報記載の書類は事務所内に保管し適切に取り扱い管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>事業所としての基本的な流れはあるが一人ひとりの意向やペースに合わせて、体調に配慮しながら個別性のある支援を行なっている。買い物、散歩、ドライブ等希望に沿って柔軟に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は共に献立を考えたり、調理の下ごしらえ、盛り付け、後片付け、食材仕分け等を行っている。職員と利用者全員が共に食卓を囲み穏やかな雰囲気の中で食事が1日の楽しみとなるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2～3回の入浴であるが、希望があれば毎日入浴することができる。一人ひとりの意向や体調、ペースに合わせて入浴している。入浴が楽しめるように工夫し安全に配慮して行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴等を考慮して張り合いのある生活ができるよう配慮している。食事の下ごしらえ、食器洗い、掃除等のほか、花見や外食、動物園見物等のホーム行事は楽しみとなっている。デイサービスの人々と共にマージャンを楽しむこともできる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの心身の状況に応じて支援している。散歩、菜園作り、買い物、ドライブ等希望に沿って行い、天気の良い日はできるだけ戸外の空気に触れるように車椅子の利用者にも外出支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な雰囲気の環境を保持する為、日中玄関に鍵はかけていない。入り口ドア付近にセンサーを設置し出入りを察知できるように工夫し、利用者の動きを見守りながら安全面に配慮して行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備し、年2回避難訓練を実施している。消防通報機、火災受信機、消火器、非常警報装置、煙探知器、誘導灯等の確認をしている。管理者と職員1名が地域消防団に入団しており、運営推進会議では住民との連携を図るよう検討している。消防署指導の下、利用者、住民参加での防災・避難訓練の実施が期待されている。		日頃から避難経路の確認をシュミレーションしておくことが望まれる。スプリンクラーの設置が予定されているので期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分、食事摂取量を記録し必要量の確認を行い周知を図っている。美味しくいただけるように、又経口摂取が続けられるように味付けや食事形態に工夫している。療養食や栄養バランスについては医師や看護師による適時の点検が望まれる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館明るく清潔である。玄関には絵画や観葉植物を飾り、1階リビングは明るく、ベランダからは季節毎の庭の景色が楽しめる。各所に手摺があり、階段昇降機が設置され、安全に配慮されている。2階にはゆったりとした雰囲気のある多目的使用の和室がある。採光、温度、湿度、換気の管理も適切である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれ、家族の写真が飾られている。収納箇所もあり程良く整頓されており、個々の状態に合わせ居心地よく過ごせるように工夫している。		

 は、重点項目。